
逃げ!! ビンビンラジオ放送局

蒼乃翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逝け！！ ビンビンラジオ放送局

【Nコード】

N 8 4 3 2 D

【作者名】

蒼乃翼

【あらすじ】

どこまでも自由で無茶苦茶なラジオ番組が始まる。ブームに乗り遅れた売れないお笑い芸人の遠野と毒舌オタク系のグラビアアイドルの近衛が巻き起こす、ラジオ業界の革命を見届けるのは、あなただ！

第一回 目指せ、ラジオのヒーローを！ 前編（前書き）

本作品は二人のキャラクターが、漫画ネタやオタクネタ、さらに時事ネタなど多様なネタを絡めながら、ぐだぐだと進行していく、ワンスーマンのラジオ形式ギャグ小説です。

コアなネタも多数含みますので、？となることも多いと思いますが、何卒よろしく。

第一回 目指せ、ラジオのヒーローを！ 前編

～ ON AIR ～

近衛 「あなたの^{ヒーロー} を直撃する！ ビンビンラジオ放送局！」

遠野 「ちょ、イキナリ何を血迷った！？ 第一回から放送中止になるわ！」

オープニングBGM

近衛 「さてさて……ようやく始めましたよ、遠野さん。私達の番組が」

遠野 「いや、いきなり番組打ち切りの危機だったけどね……」

近衛 「だって、作者………もとい、プロデューサーがカンペ出して、これ言えって」

遠野 「さ、作者って………つか、公共の電波で堂々とセクハラかよ！」

近衛 「遠野さん、サイテー」

遠野 「え、俺？ 何で俺がセクハラしたみたいなの？」

近衛 「だって、プロデューサーが………以下略」

遠野 「またカンペかよ！ それに以下略って、声に出して言っただろうすんだよ！？」

近衛 「………さて、気を取り直して」

遠野 「………さらっと無視か？」

近衛 「ついに第一回を迎えました、ビンビンラジオ放送局。どう思いますか遠野さん？」

遠野 「ついにつて表現は変だから………それにビンビンラジオっていう番組名も変だから」

近衛 「遠野さん………何を想像してるんですか。これだから中学生

の童貞坊やは」

遠野 「いやいやいや！ 成人してるから！ 既に汚れた体ですから！」

近衛 「ま、遠野さんの男性遍歴は別にいいとして……」

遠野 「女性遍歴だから！ なんて経験の対象が男なんだよ！」

近衛 「私の個人的な趣味です」

遠野 「腐女子かつ！」

近衛 「いずれ、執事系の彼氏を作って、日々の生活をブログに書いて欲しいですね」

遠野 「20年上の彼女。……腐女子でした。って、大ヒツトか……！」

近衛 「意外と詳しいですね。……さすがは、セバス」

遠野 「誰がセバスだっ！！ ……でも一応、ありがとうと言っておく」

近衛 「でも、このピンピンラジオって番組名、別に変な意味じゃないんですよ？」

遠野 「いや、明らかに変な意味だろう……」

近衛 「十億の人の理想像ビジョンになれる番組にしようと、二つの言葉の両端をもじって、スタッフさん達が徹夜で考えた名前がピンピンラジオだったんです」

遠野 「え？ それ、ホントに？ そんな、ちゃんとした由来があったの？」

近衛 「あつたんです。スタッフの願いと情熱が込められた名前だったんです」

遠野 「そうだったのか……俺はてっきり『ラジオびんびん物語』が元ネタなんだと」

近衛 「……あ！ そういえば、私達の自己紹介がまだでしたね」

遠野 「……図星か？ おい、図星なのか？ 今の話は全てが嘘か？」

近衛 「そ、そんな訳ないでしょう？ さあさあ、つまらないこと言っていないで、リスナーの皆さんに自己紹介をしましょうよ」

遠野 「……まあ、いいか。」

……えっ！と、この番組のパーソナリティをする事になった事を早くも後悔し始めている、遠野公平です。

一応、お笑い芸人をやってます」

近衛 「補足すると、最近の お笑いブーム に乗り遅れた上に自分の相方にまで見放された、落ち目気味の三流お笑い芸人です」

遠野 「……他人に本気で殺意が沸いたのは、相方以来だよ」

近衛 「なんでも、相方さんは書いた小説が大ヒットして、多額の印税が入ったことで、芸人の世界に見切りを付けたそうですが。

……どうなんですか？ その辺は」

遠野 「……アイツは 芸人が小説を書くブーム にちゃっかりと乗っただけだよ！

実力じゃなくて、まぐれだよ、まぐれ！」

近衛 「残された遠野さんは、どのブームにも乗れず、波に飲まれて海の藻屑になったと……可哀相」

遠野 「……ぐすっ」

近衛 「遠野さんが本気で泣きそうになってる間に私も自己紹介を。私は近衛茉莉花。このえ まりがただ今、売り出し中の人気グラビアアイドルです！

皆さん、これからヨロシク！」

遠野 「……彼女の前では、毒舌芸人さえも裸足で逃げ出す。はだし

あまりに腹黒くて昼間は使えないから、深夜枠限定でテレビに出演可能な毒舌アイドルだ。別名・紫色の着物の人」

近衛 「そうそう、アイドル界の楽太郎とは私のことよ……って、ちよつと！」

遠野 「ノリツッコミかよ……だが番組が始まってから、やっと一矢を報いる事が出来たぜ」

近衛 「対する遠野さんは、既に満身創痍って感じですけど……大

丈夫？」

遠野 「よ、止せ！ 止めろ！ 今まで散々、痛めつけておいて、弱った時に優しい言葉をかけることで、俺の身も心も骨抜きにするつもりだろう！」

近衛 「……………チツ。……………やだなー遠野さんったら。私、そんな事なんて考えてませんよ？」

遠野 「いや、聴こえてるから。舌打ちが集音マイクにバッチリ拾われてますから」

近衛 「さて、そろそろ真面目にやりますか」

遠野 「何を今更……………」

近衛 「この番組は、大手広告代理・電王堂の提供でお送りします」

遠野 「普通、最初にスポンサーの名前を言うんじゃないか？ それに電王堂……………？ 何かどこかで聞いたような気が？」

近衛 「素敵よね、高橋克典」

遠野 「特命係長の会社か！！」

近衛 「俺、参上！！ の決め台詞がたまらないよね」

遠野 「それ違うから！ 電王違いだから！」

近衛 「答えは訊いてない」

遠野 「だから違うって！ 明らかに放送の時間帯が違うから！ アダルト向けとキッズ向けだから！」

近衛 「ふん、アダルトとキッズの境界線なんて、最近では曖昧なモノなのよ？」

遠野 「なんで、そんなに偉そうなんだ……………でも何故に？」

近衛 「だって戦隊モノの敵女幹部に及川奈央を起用する時代よ？」

遠野 「……………は、反論できない」

近衛 「今までだと、過去に女幹部をやった女優さんが、明日の仕事に困って『そっちの世界』に踏み込んで、ってのは割と多かったけど」

遠野 「……………確かに多いな」

近衛 「でも最初から『そっちの世界』にいる人を引っ張ってくる

のは、マズイでしょ？」

遠野 「……他には歌のお兄さんが男優に転向したりな」

近衛 「子供達の夢を破壊する行為よね。ヒーローショーで『中身の人』を目撃するよりキツイわよ」

遠野 「そういうのを噛み締めて、子供達は大人の階段をのぼって行くんじゃないのか？」

近衛 「さすがに幼稚園児とかに大人の階段をのぼらせる必要は無いと思うけど……」

遠野 「随分とマトモな意見だ……なんか、その手の話題に恨みでもあるのか？」

近衛 「……そういえば、怪人役で『アントキの猪木』が出演してたけど」

遠野 「話逸らされた……でも、アレって他の芸人でも一緒だよな？」

近衛 「私的には『春一番』がいいかも」

遠野 「その違いが分からないし……」

近衛 「そんなんだから、未だに三流芸人なのよ」

遠野 「おい、コラ！」

近衛 「遠野さんに怪人役が回ってくる日は、果たしてあるのか！？」
「この番組がヒットすれば、そんな日も近いはず！！」

希望の未来へと思いを馳^はせながら……後半へと続きま
す」

遠野 「何、その終わり方！？………それじゃ、CMで〜
す」

第一回 目指せ、ラジオのヒーローを！ 前編（後書き）

作者兼プロデューサーの蒼乃翼です。

完全なギャグ作品として書き始めた、この作品。

ラジオ番組、というスタイルをとっているので読者からの手紙が、リスナー話の命になります。

こんなネタをやってほしい、こんな話題はどうだろうか？

そんなリクエストを感想として送ってください。

それが彼らの番組に反映されます。

愛と笑いに溢れた、お手紙を待ってます！！

ちなみに本編中で及川嬢をネタにしていますが、別に彼女が嫌いなわけじゃなくて（というか、お世話になってるし）早朝の戦隊モノで彼女を目撃した時の衝撃を伝えたかっただけなので、その辺は誤解しないでください（笑）

あと、同時進行中の『神理の欠片』もヨロシク！

第二回 目指せ、ラジオのヒーローを！ 後編（前書き）

第一話の後編なので、前編を読んだ後にご覧ください。

第二回 目指せ、ラジオのヒーローを！ 後編

CMソング

近衛「もぐもぐもぐ……もぐもぐもぐ」

遠野「美味しそうにハンバーガー食べてる所、悪いんだけど……始まつてるよ？」

近衛「え……えええ！？ ちっ……もぐもぐもぐ……ごくごくごく」

遠野「驚いても、とりあえず残さずに全部食うんだね……買って来たの俺なのにさ。

拳句、また舌打ちしたよね」

近衛「残すと、もったいないオバケが出るんですよ？ 知らないんですか？」

遠野「話自体は知ってるけど……逆に十代の君が知ってる事に疑問を拭えないよ」

近衛「はい、始めましたよ。『ビンラジ』後半戦が」

遠野「……………」

近衛「……はい、始めましたよ。『ビンラジ』後半戦が」

遠野「……………」

近衛「なんか放送事故みたいになってるじゃないですか！！ 何か話してくださいよ（小声）」

遠野「生放送だから、編集点を入れても意味ないよ」

近衛「誰が、私の行動を説明しろと言いましたか！」

遠野「じゃあ……ビンラジって何？ 何か、オリラジみたいな呼び方だけど」

近衛「え？ ちまた巷では、そう呼ばれているらしいですよ？」

遠野「嘘だから！ それ明らかに嘘だから！ 始まってから、まだ二日だよ！？（リアル）」

近衛「何を言ってるんですか？ これは今日から始まった番組でし

よ？」

遠野「いや、その通りなんだけど……それを君に言われるのは何か納得できない」

近衛「遠野さんが納得できなくても……世界は変革していくんです」

遠野「何の話！？　これ、ただのラジオ番組だよ！？」

近衛「そう思っているのは、実は遠野さんだけです」

遠野「……………え？」

近衛「この番組は、メディアを通して日本人、ひいては世界の愚民どもの心を掌握、誘導することで世界征服を間接的に遂行するとい
う……………」

遠野「何、そのメタ設定！？」

近衛「この放送が終わった頃には、ペコポンは我々の支配下であります。ゲロゲロリ」

遠野「軍曹！？　いつの間にか近衛ちゃんがケ　口軍曹に！？」

近衛「ついでに視聴者全員を私のファンにして、グラビア界の頂点に立つであります」

遠野「そっちが本当の目的だろ！！　完全に公私混同だからっ！！」

近衛「ゲロゲロゲロゲロ……………」

遠野「おい、ゲロゲロ鳴いて誤魔化すなよ」

近衛「ゲロゲロゲロゲロ……………うっ」

遠野「って、気持ち悪くなったのか！　ゲロゲロやって、気持ち悪くなったのか！！」

近衛「…………責任、取ってよね。パパ？」

遠野「ちよっと！？　俺に心当たりは無いよ！？　っか、悪阻^{つわり}じゃないだろが！」

近衛「CM中に食べたハンバーガーが……………」

遠野「やっぱりか！　人の分まで食べるからだ！」

近衛「胃の中でシェイクに融合進化を」

遠野「何、その突然変異。…………てか、その前にシェイク言っな、汚いから」

近衛「うわ、本格的に気持ち悪くなってきた……遠野さん、ちょっと背中擦ってよ」

遠野「何故、そこで急に甘える？……まあ、仕方ないか……ほら」

手の平から伝わる体温。女性の体特有の異常なまでの柔らかさ。

近衛の荒れる息遣いが、耳の中で反響する。必死で煩悩を振り払い作業に集中する。

ふと、近衛と視線が合った。潤んだ瞳を見つめた瞬間、俺は……

遠野「って、誰だ！　後ろで変なナレーション入れてる奴！！　やめろや、ボケ！！」

そういえば、聞いたことがある。男に甘やかされた女性ほど悪阻の症状は悪化するらしい。

ということは、やはり彼女の苦しみは俺にも責任が……

遠野「だから止めろって言うてんだろ！　あ、お前か！？　ちょっと、お前そこ動くな！　お前から先に腹の中身を吐き出させてやる！！　覚悟しとけ！」

　少々、お持ちください　　

近衛「アリガト、遠野さん。おかげで落ち着きました」

遠野「俺の方は、血管が切れそうだよ」

近衛「痔ですか？」

遠野「違うから！　ってか一応、グラビアアイドルなんだから痔とか簡単に言っちゃダメ！！」

近衛「遠野さん、今時のグラビアアイドルは、もっと生々しい会話を平気ですますよ」

遠野「そういうことも言うなよ！！　ファンの夢をあっさりと壊す

なよ！」

近衛「……もう、遠野さんってば痔意識過剰なんだから」

遠野「いや、話の流れがオカシイから！！……って、漢字も違うし！！」

近衛「そうですか？……おや、またカンペのようですよ？」

『スタッフの一人が重傷で、早く病院に連れて行きたいので、今日は終わりで……』

遠野「怪我人が出たのか？ 大変だな、おい」

近衛「遠野さんがやったくせに……」

遠野「……コホン。えーと、ビンラジではリスナーからの応援の手紙を募集しております」

近衛「宛先は、ビンラジ小説の感想まで。皆さんの愛あるメッセージを待つてまゝす！」

遠野「パーソナリティは、お笑い芸人・遠野公平と」

近衛「グラビアアイドル・近衛茉莉奈がお送りしました！」

二人「……それでは、次回のビンラジをお会いしましょう！！」「」

第二回 目指せ、ラジオのヒーローを！ 後編（後書き）

どうでもいいけど、ケ ロ軍曹って隠せてないよね？
ある意味、超・劇場版3 放映記念？

第三回 戦え！ 権利関係と！ 前編

～ON AIR～

近衛「良い子のみんな？ ビンラジが、始まるよ～！」

遠野「……何だよ、このNHKの子供番組みたいなノリは」

オープニングBGM

近衛「さて、二回目の放送を迎えました。ビンビンラジオ放送局、略してビンラディン」

遠野「盛大せいたいな言い間違いだよ！ ボケにしたって、危険だから！ 色んな方面から叱しかられるぞ！」

近衛「大丈夫、叱られるのは基本的にプロデューサーだから」

遠野「ひどっ！ ……そんなだと彼の髪の毛、また白髪が増えるぞ。ストレスで」

近衛「まだ二十歳になったばかりなのに。哀あわれな作者……もとい、プロデューサー」

遠野「作者って言うな。って、プロデューサー……何時の間にか茶髪に染めてるし……」

近衛「大学入学を控えて、ビジュアル面の改善を図ったみたいね」

遠野「何も公共の電波で、そんな事をバラさんでも……」

近衛「……今更いまさら、焦っても手遅れなのにな」

遠野「……一応、俺らの造物主……というか上司に対して、その毒舌はどうなんだろう」

近衛「いや……ぶっちゃけ、そういう設定だし」

遠野「ぶっちゃけ過ぎだ！！ 世界観とか完全に無視か！！」

近衛「それが私、近衛ちゃんの生き様」

遠野「意味不明だから……」

近衛「ところで大学生になろうという青少年が、白髪隠しの為に染髪するって、どうなの？」

遠野「それを言うなら、大学入学の前日にネットで小説書いてるのはいいのか？」

近衛「あ、カンペが出ましたよ？ ……どれどれ」

『ごめんなさい、その辺で勘弁してください。今度から、もっと早いペースで書きますから』

近衛「どうやら、数週間も放置されていた私達の怒りを理解して貰えたようですよ、遠野さん」

遠野「俺は別に怒ってないけど……それに別口が忙しいんだろ？」

近衛「いや、別口の更新も滞ってるらしいんですよ。妹が言ってます」

遠野「何だよ、妹って！？ そんなの初耳だぞ！？」

近衛「別口の方で活躍（予定）している妹が、自分の出番がなかなか来ないって……」

遠野「そんな隠し設定が……！ さすがに、それには少し驚いたな」

近衛「この番組の放送が始まってから、発生した設定らしいんだけどね」

遠野「何だよ、その希薄な姉妹の関係性は！？」

近衛「作品をリンクさせる事で、読者の相互増加を狙おうとしてるみたいね」

遠野「そんな、伊坂幸太郎いさかこうたろうじゃないんだから……って、俺らの作者も仙台人だ！？」

近衛「なるほど……同郷の小説家に倣ならって、自分の作品を高める一助いっしゅにしよう」と

遠野「……おい、プロデューサーが軽く泣き始めたぞ……」

近衛「自分の考えが見透かされたぐらいで、うろたえるなんて……小さい男」

遠野「俺は、お前のブラックホール並に腹黒くて、見透かせそうにない性格が怖くて仕方がない」

近衛「何よ、このエンジェルスマイルを前にして、よくそんな台詞が吐けるわね。見よ、この輝き！」

キラキラキラキラキラ！！

遠野「いや、そんな効果音付きで輝かんでも……」

近衛「ふっふっふ……この程度、私の持つ48の必殺技（主にファンに対して）の中では、序の口よ」

遠野「ファンを必殺してどうする気だよ……ってか、48もあるのか必殺技が」

近衛「間接技もあります」

遠野「キン肉マンか……」

近衛「祝、29周年！ という事で」

遠野「どうして急に……」

近衛「実は……」

遠野「じ、実は……？」

近衛「お昼が牛丼だったんです」

遠野「ええ？ 俺は普通のロケ弁だったぞ？」

近衛「ロケ弁とは別にスタッフさんに食べたい、って言ったら差し入れてくれたんです」

遠野「おい、スタッフ？ スタッフ？」

近衛「うわぁ……他の芸人さんのネタを使うなんて、遠野さんプライドとかないんですか？」

遠野「ふん、そんなモン山椒代わりさんしやうに味噌汁の風味付けに使ってたわ！」

近衛「いや、プライドは風味付けにはならないでしょ……そもそも活字で表現するには難しいネタですし……」

遠野「いいんだよ、分からなくても。あと、プライドは少し苦くて

鼻にツンと来る風味がある」

近衛「止めてよ、そういう切なくなる発言……」

遠野「くやしいです!」

近衛「……この流れだと、それもパクリに聴こえる」

遠野「祝、スパロボZ出演! という事で」

近衛「真似された! って、色々と間違ってるよ!

コンビ名と作品名が被ってるだけだよ!」

遠野「ザブングルネタが分かるって……何歳なんだ、お前は……近

衛茉莉花、恐ろしい子」

近衛「ふふふ……女性に歳を訊くなんて、命が惜しくないのかしら?
」

遠野「怖^{こわ}っ、めちゃくちゃ怖い! なんで突然、キャラが変わった!
!? ってか俺より明らかに年下だろ! なあ、そうだと言ってく
れ!」

近衛「……さて、今日の後半戦からはリスナーからのお便りや
メールも紹介していく予定です」

遠野「何だよ、今の間は……まあ、いいか。それで? どんな感じ
のを紹介するんだ?」

近衛「主に『近衛ちゃんカワイイ!』とか『近衛ちゃん結婚して!
』などのパーソナリティ関連のメールを……」

遠野「偏^{かたよ}ってる! 選択基準が偏ってる! そうやってラジオを私
物化する気か!」

近衛「……ではCMです」

作者「せめて、否定して欲しかった!」

第三回 戦え！ 権利関係と！ 前編（後書き）

（CM中）

作者『お疲れ様です。お二人とも』

近衛「別に疲れてないよ」

遠野「そうだな」

作者『そうなんですか？』

近衛「何せ、前半の収録だけで四か月だもん」

遠野「ほとんど休みっぱなしだったな……」

作者『いや、もう、なんかスミマセン』

近衛「反省しなさい、反省」

作者『だって、大学生活に慣れるのに大変で……』

遠野「四六時中、ニコニコ動画見てただろうが！」

作者『……その通りです。スミマセン』

近衛「小説家志望なんだから、もっと頑張りなさいよ」

作者『はい、肝に銘じます』

……そんな訳で、どうも蒼乃翼です。いや、本当にご無沙汰してま
す。

確かにニコニコ動画に嵌りました。でも執筆活動をしてない訳でな
く……。

いや、私も男です。言い訳はしません！ ただ一言……「これから
は頑張ります！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8432d/>

逝け!! ビンビンラジオ放送局

2010年10月9日01時09分発行